

和地ひとみレポート No.429

(仮称)東大和市児童発達支援センター及び認可保育園等の子育て支援施設運営整備事業者と協定締結 ユニークなインクルーシブ保育・・・市の子育て環境の充実に期待

■第二給食センター跡地を活用し

…平成 24 年に児童福祉法が改正されたことにより、障害のある児童が身近な地域で適切な支援が受けられるよう、従来、障害種別に分かれていた施設体系が一元化され、児童発達支援は、主に未就学の障害のある児童を対象に提供するものと位置づけられました。

…そして国は、令和 5 年度末までに、児童発達支援センターを各市町村に少なくとも 1 か所以上設置することを基本方針に盛り込み、東大和市においても、児童発達支援センターの整備が必要となりました。

…現在、東大和市には指定児童発達支援事業所『やまとあけぼの学園』がありますが、施設の老化が課題です。また、上記の国の法改正に則り、「東大和市障害者総合プラン」には、『やまとあけぼの学園』の機能と地域支援機能を持ち合わせた児童発達支援センターの設置を盛り込み、検討を重ねてきました。

…市は新設する児童発達支援センターの位置づけを以下の通りとし、平成 28 年度に廃止された第二学校給食センターの跡地（約 3,500 ㎡≒1,060 坪）を活用し、児童発達支援センター整備することとしました。

【新設する児童発達支援センターは…】

- ◆現在ある『市立やまとあけぼの学園』での事業（児童発達支援事業、障害児相談支援事業、特定相談支援事業）を継承する施設とする。
- ◆新たに児童発達支援センターとしての機能を追加する。
- ◆地域における中核的な支援機関として、保育所等訪問支援事業や相談支援等を実施し、地域の保育施設等に対し、専門的な知識・技術に基づく支援の充実にを図る。

■認可保育園をプラスした民設民営で

…また、東大和市は、児童発達支援センターを整備することが必要になっただけでなく、市の重要施策である「日本一子育てしやすいまち」の実現のため、待機児童対策も課題として抱えています。

…そこで、今回、新設する児童発達支援センターの施設に、認可保育園も含むこととし、『待機児童解消及び保育サービスのさらなる充実に図り、保育の質の向上を目指し、児童発達支援センターとの併設により、障害のある児童を含めた保育を必要とする児童の地域社会への参加・包容（インクルージョン）を進めるもの』と、施設の意義を新たに設定し、児童発達支援センターだけでなく、新設する施設については、『(仮称)東大和市児童発達支援センター及び認可保育園等の子育て支援に資する施設』とすることに決定しました。

…しかし、東大和市は上記の通り施設を設置するための土地＝第二学校給食センター跡地は持っていますが、建物を建設する財源、児童発達支援センターを運営するためのノウハウや人材などのソフト面の準備などが課題に。



【(仮称)東大和市児童発達支援センターおよび認可保育所等のイメージ】

…また、現在ある国や東京都の制度では、市が施設整備をし、自ら運営をする「公設公営」よりも、民間事業者が施設整備をし、運営も行う「民設民営」の方が、多くの補助金を得られる内容となっており、「公設公営」より「民設民営」の方が、施設整備費では約 5 億 6,000 万円、年間運営費では約 1 億 7,700 万円も市の財政負担が少ない試算結果となりました。

【令和 2 年に試算した市が負担する施設整備費と運営費】

◆公設公営の場合の市の負担

施設整備費：約 8 億円

運営費：約 2 億 5,000 万円／年

◆民設民営の場合の市の負担

施設整備費：約 2 億 4,000 万円

(民設でも一部市が負担しなければならない)

運営費：7,300 万円／年

(国・都の補助金以外の市の補助分のみ)

…しかし、いくら民設民営の方が市の財政負担が少ないとはいえ、そもそも、この事業を受けてくれ、かつ、市の子育て環境の向上が望める事業者がいなければ、この計画は実現しません。

…そこで市は、市が土地を無償貸与することを条件に、30 年間という長期間にわたり各種事業を安定的・持続的に提供できる、財政力・技術力・実績等のある最適な民間事業者を公募することに。

…ちなみに、市が土地を有償貸与した場合の地代収入は約 900 万円／年という試算結果だったので、前述の公設公営と民設民営の財政負担結果からみても、土地を無償貸与しても市財政の負担は民設民営より少ない結果となります。

…その後、市は昨年 9 月に募集要項を公表。2 社から応募があり、企画書やプレゼンテーション、ヒアリングなどの審査を経て、最終的に『社会福祉法人どろんこ会』が選定され、令和 4 年 3 月 15 日に整備運営に関する協定書を締結することが出来ました。

(裏面に続く)

■インクルーシブ保育とは

…市が設定した施設を新設する意義の中には『障害のある児童を含めた保育を必要とする児童の地域社会への参加・包容（インクルージョン）を進めるもの』と明記されています。

…この度、東大和市と協定を締結した『社会福祉法人どろんこ会』（以下、どろんこ会）はインクルーシブ保育のパイオニアともいわれ、厚生労働省が2021年秋に実施した「障害児通所支援の在り方に関する検討会」および「地域における保育所・保育士等の在り方検討会」において、どろんこ会の取組は先進事例として取り上げられています。

…この“インクルーシブ保育”という言葉は、まだ馴染みのない人も多いと思いますが、これは、近年多様性を認める風潮にある社会で広がってきている保育の仕組みです。

【インクルーシブ保育とは】

◆インクルーシブ(inclusive)

には「包括的な」「すべてを含んだ」といった意味がある。その考え方を教育に当てはめたのが「インクルーシブ(インクルージョン)教育」。



◆2006年12月に、国連総会において採択された「障害者の権利に関する条約」において以下のように明記された。

(第二十四条教育)

締約国は、教育についての障害者の権利を認める。締約国は、この権利を差別なしに、かつ、機会の均等を基礎として実現するため、障害者を包容するあらゆる段階の教育制度(inclusive education system at all levels)及び生涯学習を確保する。

日本は2007年にこの「障害者の権利に関する条約」に署名。2014年1月に批准。世界で140番目の締約国。

◆インクルーシブ保育のメリット

➔多種多様な人がいることを学べる

インクルーシブ保育では、年齢の違う子どもや、障害を持つ子どもが同じ教育環境で過ごす。幼い頃から多様な他者と一緒に生活することで、それぞれに違いがあることが当たり前だと認識し、成長することができ、従来の分離教育で無意識に生まれていた差別や偏見を防げる。

➔違いがある人との関わり方を学べる

学年や発達に違いがある人と同じ環境に身を置くことで、年齢が同じ園児だけのクラスとは違った人間関係が生まれる。年下の子の面倒を見たり、年上の子に追いつこうとしたりと、他者に刺激を受けることで行動が変わる。

また、自分と同じことがスムーズにできない子に手を差し伸べるといったコミュニケーションも生まれ、自然と相手を思いやり、尊重するという気持ちが育つことが、インクルーシブ保育の特徴。

■社会福祉法人どろんこ会

…今回、東大和市と協定を締結したどろんこ会の概要は、以下の通りです。

◆どろんこ会グループ

(2022年3月現在)

(社会福祉法人どろんこ会、株式会社ゴーエスト、株式会社日本福祉総合研究所、株式会社南魚沼生産組合)は全国約140箇所の認可保育園、事業所内保育所、児童発達支援センター、子育て支援施設等を運営。次代を担う子どもたちの「にんげん力」を育む体験型保育・自然保育を行う。1998年設立。職員数約2,000人。利用者数約7,000人。HP：<https://www.doronko.jp/>

所在地：東京都渋谷区渋谷1-2-5 MFPR 渋谷ビル 13F
(グループ内の株式会社南魚沼生産組合以外)

◆どろんこ会グループの子育てで

身に付けることを目標としている6つの力

1. ケガをしない強いからだを育てる

園では裸足で過ごし、長距離散歩や木登り、リズム体操、雑巾がけ、(宗教は関係ないが)座禅を取り入れている。

2. 自分でできることを自分でする

子どもたちは畑仕事をし、自ら育てたものを調理する体験もする。給食のお米は、新潟県南魚沼市にある自社の田圃、植え付けから精米、発送まで自給自足で行っている。子どもたちは毎年田植え、稲刈りに参加。

3. 全ての人との関わりから、判断・行動を身につける

0歳から5歳児が共に暮らす異年齢保育、そして障害の有無では分けないインクルーシブ保育を実践。地域の交流を大切に、商店街ツアーや青空保育を行っている。

4. 活動を選択し、自分で考えて行動する

土、水、火と関わることで、自然の事象に自ら気づき、考える力を養う。(どろんこ遊び、水遊び、焚火保育など)

5. 生死を知る

ヤギやニワトリなどの生き物の世話を通じ、命の重みを知ります。また、「命あるものを食している」ことを経験するための食育、命の大切さを学ぶ性教育も実施。

6. 感じたこと・考えたことを表現する

生活の中で自由に表現し創る環境を用意し、子どもが感じたこと、考えたことを表現できるような保育計画。

■市の保育環境の充実に大きく期待

…どろんこ会の認可保育所と児童発達支援事業所の併設施設は、東京都では世田谷区、足立区、調布市、埼玉県はふじみ野市、桶川市、千葉県君津市、神奈川県横浜市、福島県郡山市と8か所ありますが、3年後に開設予定の東大和市の施設は、どろんこ会グループ初の「併設」ではない、同じ敷地内、一つ屋根の下で子どもたちが共に活動する「真のインクルーシブ保育」を実践する施設。東大和市内の保育園はそれぞれ個性ある保育を実践していますが、どろんこ会が仲間入りすることで、互いに切磋琢磨し、東大和市の保育環境がより充実することに、今から期待しています。

市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート。駅前配布するレポートは毎回、最新号です。

【プロフィール】「私たちの身近にある市政、市議会。伝えることがスタートだと思います。」

1970年 東京都北区生まれ。父の転勤で1歳から群馬県で育つ。幼稚園からカギっ子。リーダーシップを発揮し、小学校で児童会長、中学校でも生徒会長を務める。大好きな音楽を究めようと武蔵野音楽大学に進学、卒業。卒業後は群馬の山あいの小学校で臨時教諭として担任を2年勤め、新しい試みで授業を活性化させ「元気印の先生」として保護者・生徒から親しまれた。学校外の一般社会で挑戦しようとベンチャー企業の(株)シッターネットワーク(※スーパーマーケットを経営。店頭公開から一部上場、外資系企業に転換)に社長秘書として入社。のち店舗現場に異動、同社で初の女性店長となる。月刊誌『日経WOMAN』のベンチャー企業で活躍する女性特集で取り上げられる。その後、人材開発部長を拝命。『人を活かす』経営を学ぶため一念発起しカナダに留学。外から見た日本の将来に、漠然とした不安を感じる。帰国後は、不動産投資会社にて企画業務、税理士対応、広報、社員研修、組織活性化などに従事。2011年4月、初当選。現在3期目。顔の見える議員として、日々奮闘中。



東大和市 市議会議員
和地 ひとみ

■ 連絡先

和地 ひとみ事務所

HP：<http://www.wachi1103.jp>

✉ wachi_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp

【電話・FAX】042-516-8546

〒207-0005 東大和市高木3-274-2-102